

モーニングセミナー1

演題名	在宅でも必須!? がん疼痛治療のためのオピオイド鎮痛薬 ～ 薬剤選択する時に役立つ知識 ～
------------	--

概要

国民の2分の1が生涯のうちがんに罹患すると報告され、がんは死亡原因の第1位となって久しい。このような背景から、がん、特に進行期のがんは在宅医療の対象疾患として大きな部分を占めている。

進行がん患者は様々な苦痛（suffering）を抱えるが、なかでも疼痛は頻度も高く Quality of Life (QOL)を低下させる重要な症状の一つである。このことから、がん疼痛緩和は在宅療養を続けるがん患者を診療していく上で必須の診療技術と考えられる。

がん疼痛に対する緩和治療の中でも薬物療法は在宅でも継続できる重要な治療法である。オピオイド鎮痛薬はがん疼痛に対する薬物療法の中心となる薬剤であり、オピオイド鎮痛薬を如何にうまく使えるかが良好な鎮痛のキモになってくる。しかしながら、多くの医療者はオピオイド鎮痛薬に関する教育を十分に受ける機会が得られていないことが多いのが現状である。

このセッションでは最近本邦でも使用可能になった新規のオピオイド鎮痛薬（メサドンや経粘膜吸収フェンタニルなど）のような専門的で特殊なオピオイド鎮痛薬ではなく、通常診療でよく使用されるオピオイド鎮痛薬に関して、薬理学的な特徴の整理を行うとともに臨床試験の成績を踏まえながら、実際にどのようにオピオイド鎮痛薬を使い分けていけばよいかを考えていきたい。